



## ◇実践活動記録

ふるさとを誇りに思い、ふるさとの未来を考える井波っ子の育成

ねらい

身近な教材との出会いから生まれた疑問を大切にしながら学習活動を進め自分の調べたいことや取り組みたいことを見付け、友達と互いに教え合い高め合いながら、主体的・協働的に課題を解決しようとする児童を育てる。



	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
テーマ	井波をもっと知ろう	井波の特色を知ろう	井波の問題を考えよう	井波の食や命について考えよう	井波を支える人について知ろう
実践活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○どきどきまちたんけん</li> <li>○井波に伝わる民話を聞こう</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○井波のすてき発見</li> <li>・すてきな物をさがそう</li> <li>・すてきな人をさがそう</li> <li>・名人の話を聞こう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見つけようエコ作戦</li> <li>・ごみについて</li> <li>・水について</li> <li>○祭りについて調べよう</li> <li>・存続の工夫</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大地のめぐみとわたしたち</li> <li>・育苗センター一見学</li> <li>・田植え体験</li> <li>・稲刈り体験</li> <li>・ふるさとの農業の未来への提言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ふるさとを築いた人、築いている人</li> <li>・木彫刻体験</li> <li>・木遣り踊り体験</li> <li>○地域の未来への提言をまとめよう</li> </ul>
発信内容	<b>ふるさとの誇りをまとめ、ふるさとの未来について考えたことを発信する</b>				
	探検で知ったことや知った人についてまとめ、発表する	見つけたすてきをまとめて発表する	課題について話し合い、模造紙にまとめる	農業の未来について話し合い、グループで提言文をつくる	ふるさとの未来について話し合い、提言文をつくる
発信方法	ワークシートにまとめて掲示する 等	タブレットに情報を収め、動画とともに発表する 等	学習発表会のステージ発表での表現活動 等	感謝の集いでの提言活動 等	卒業制作 市長への提言 等

## 2年生 井波をもっと知ろう

ねらい：井波のことをくわしく学び、ふるさとへの興味関心を高めるとともに、そのよさがわかる。

### <まちたんけん>

井波のまちをたくさんの人に知ってもらうための工夫や彫刻の素晴らしさを探しに瑞泉寺や八日町通りの見学や取材活動を行った。観光ボランティアガイド「井波の風」や保護者ボランティアの協力で、グループ毎に関心のある場所

を選び、各自が自分の課題を追究することができた。

- ・瑞泉寺にはたくさんの彫刻があって、どれもすごかったよ。龍の彫刻は本物みたかったよ。
- ・細かい彫刻のところも、触ることができたよ。昔の人が手で作ったのはすごいと思いました。



- ・お店さんは、井波でたくさんとれるものの他にも、お土産も売っていて、その説明もしてくださったよ。
- ・電話ボックスや表札を彫刻で飾ったり、町のいろいろなところに猫の彫刻がかくされていたりして、観に来る人たちを楽しませているんだな。



### <民話を聞こう>

見学の途中に観光ボランティアから、井波のまちや瑞泉寺の起こりを物語にした紙芝居を聞き、実際に見てきたものの歴史を感じることができた。

- ・井波の昔ばなしは、知っていたこともあったけど、初めて聞いたことや見学してきたことの話もあって面白かったよ。



## 3年生 井波の特色を知ろう

ねらい：井波の文化や産業、携わる人について学び、ふるさとへの興味関心を高めるとともに、その特色がわかる。

### <すてきな物をさがそう>

井波の伝統産業である「井波彫刻」について学ぶために井波彫刻伝統産業会館及び実演工房の見学を行った。観光客をひきつける会館の様子や実際にのみをふるって彫刻を仕上げる彫刻師の姿から、その技術の素晴らしさと地域、彫刻組合等の工夫について深く知ることができた。



- ・彫刻師さんが実際に彫刻を彫る様子を見てきました。いろいろな形、大きさのみがたくさんあり、それを上手に使っていろんな作品を作っていて、すごいと思いました。
- ・会館の前に大きないろいろな色を付けた狛犬があったよ。たくさんの人に見てほしいです。

## ＜すてきな人をさがそう＞

井波の産業の一つである「里芋づくり」と里芋づくりの名人について学ぶために、里芋農家を訪れ、里芋ほりの体験をさせていただいた。実際に広大な畑で里芋を手掘りしたり、選別したりする作業を体験し、農家の苦勞と工夫について学んだ。また、里芋のいろいろな食べ方についても教えていただき、土産に一人一袋ずつ里芋もいただいた。全員でお礼の手紙を書き、後日届けると、「子供たちの手で丁寧に掘ってもらい、親芋と子芋の選別まで正確にってもらい本当に助かった。逆にお礼を言いたいほどです」とうれしい返答をくださった。

- ・土の中から塊になった里芋がぼこっと出てきて、いつも食べている里芋がこんなふうについていることが分かりました。
- ・大変な作業だったけど、丸々とした芋を見るとうれしかったです。上手に育てておられると思いました。もらった芋を家で料理してもらったら、とってもおいしかったです。

上記の学習の成果を子供たちなりにタブレット端末に静止画と動画でまとめ授業参観の時に保護者の前で発表した。保護者へのインパクトや反響は大きく、子供たちは学習の成果に満足している様子であった。



## 4年生 井波の問題を考えよう

**ねらい：**井波地域が抱える環境問題や祭りの後継者問題について考える機会を設け、問題解決のために努力している人の姿を通して、ふるさとを誇りに思い、主体的に問題を解決していこうとする意欲を高める。

## ＜見つけようエコ作戦＞

4年生では、学習のゴールとして主体的にエコ活動を進められる子供を育成するために現地学習や取材活動を通してごみ問題や水問題に取り組んだ。住人にとって大切な環境や資源を守るために、これまで多くの人の知恵と力が注ぎ込まれていることに気づき、自分も住人の一人として協力しようという気持ちを育てることが大切である。



- ・僕たちの飲み水をたくさんつくるために、近くにこんなすごい施設があることが分かりました。
- ・たくさん手間と時間をかけてきれいな水をつくってくださっていることが分かりました。毎日何気なく使っている水だけど、もっと大切にしないといけないと思いました。

## <祭りについて調べよう>

今年度、新型コロナウイルスの影響で、子供たちも地域も楽しみにしている5月3日の井波八幡宮大祭「よいやさ祭り」の主要行事が中止となった。その知らせは子供たちにも大きな衝撃であり、生まれて初めての経験でもあった。それを機に学年の何人かが井波の祭りについて興味をもち、調べ学習を始めた。支援する教師も古い文献を紐解き、祭りの歴史についての資料を提供した。すると過去に何度も屋体の後継者問題や神輿の担ぎ手不足問題があがっていることが分かった。そこで、関係する人への取材や招聘事業を行った。



- ・踊り屋体は、一度は後継者不足でやめてしまっているけど、日本遺産に登録された予算で復活することができ、学年の友達も踊ることができた。本当に良かったです。
- ・根性で人々に呼びかけ、復活させた人はすごいと思いました。
- ・井波の祭りなのに神輿の担ぎ手がいなくて京都からお金を出して担ぎ手をよんでいたことがあるなんて初めて知りました。でも、たくさんの人の努力で井波だけで復活でき、本当に良かったと思います。僕も将来担ぎたいと思います。

子供たちの祭りに対する思いが大きくなったのを感じた教師は、今年度中止となった大祭の様子や神輿の巡行を学習発表会のステージ発表で復活させることを子供たちに提案した。子供たちは、意欲的に練習や創作活動に取り組み、自分たちの手で見事に祭りを復活させ、来場のお客様に大きな感動を届けた。終わってもなかなか拍手が鳴りやまないほどの大成功であった。



## 5年生 井波の食や命について考えよう

**ねらい：**井波地域で行われている農業について学習し、生産を増やすための工夫、農業の進歩や抱える問題、命をいただく意義等について考え、将来への提言を行う。

### <田植え、稲刈り体験>

地元にある農業公社の協力のもと、毎年田植え、稲刈りの体験をさせていただき、取材活動や感謝の集い等への出席にも応じてくださっている。

- ・稲刈りは大変だったけど、苦勞して植えた苗をこんなに育ててくださったので感謝して刈り取りました。後で見た機械はすごかった。



## <農業の未来への提言>

お世話になった農業公社の方々を学校にお呼びし、「感謝の集い」を行った。その際、子供たちなりに考えた「ふるさとの農業の未来への提言」を行い、聞いていただいた。米や野菜のよさを生かした新商品や販売促進につながるキャラクターの提案など子供らしい発想の提言が次々と発表され、感心しておられた。



## 6年生 井波を支える人について知ろう

ねらい：2年生からの「ふるさと学習」の経験を生かして、最高学年では人に焦点を当て、未来の後継者となる自分視線で地域の未来への提言を行う。

## <木遣り踊り体験、木彫刻体験>

一度は途絶えた「木遣り踊り町流し」を復活させた「井波木遣りの会」の会員に、継続していくうえでの苦勞を聞いたり、中学生になって町流しや体育大会で披露する木遣り踊りの指導を直接受けたりした。

また、井波の伝統工芸である「井波彫刻」の彫刻師から卒業制作である木彫刻の指導を受ける機会も毎年得ている。素晴らしい作品を生み出すその技術の高さを間近に見、教えていただくことで井波彫刻についてさらに深く理解することにつながっている。



- ・踊りを続ける苦勞や踊りの振りの一つ一つの意味を教えてくださいました。難しかったけど、楽しく踊れました。
- ・彫刻刀の使い方が僕たちと全然違いました。井波彫刻の技術のすごさを見せてもらいました。ずっと守ってほしいです。

ふるさと学習の集大成を「ふるさとの未来を考える」という提言で締めくくっている。学習参観や学校評議員会等の機会をとらえて保護者や地域の方々に発信したり、予定が合えば市長へ提言したりもし、評価を受けることができた。



## まとめ

各学年の実践活動のゴールは、発達の段階による多少の違いはあるものの、ふるさとを誇りに思い、愛着をもつからこそ未来につながるための課題を含んでいる。未来の継承者である子供たちが、主体的に感じた課題解決策を発信する方法に、いくつかの選択肢を設けたことで、子供たちの意欲が増し、受け取る側のインパクトも高まった。また、解決策に対する地域からの評価が子供たちと地域をさらに結びつけることにもつながった。今後もこの実践活動を続け、ふるさとを誇りに思い、ふるさとの課題に立ち向かいながら地域に貢献できる後継者を育成したい。